

1. 木質バイオマス関連情報

■住友商事（株）（東京）、バイオマス由来の CO₂ を回収・貯留する CO₂ 除去事業（CDR：Carbon Dioxide Removal）を展開するノルウェーの「Inherit Carbon Solutions AS」に少額出資したと発表。出資額は非公表。Inherit は 2021 年設立の若いスタートアップ企業。北欧等で普及しているバイオガスの開発から発生する CO₂ を回収・貯留するアプローチ（BECCS）を使ってクレジットを創出するプロジェクトの開発・普及を展開している。住友商事は同社と連携することで、欧米やアジア地域でカーボンの貯留権益を確保しながら CDR クレジットを創出し、クレジット需要の増大が予想される航空・船舶業界等を中心にグローバルに販売するほか、将来は日本企業向けへの販売も目指す【（一社）環境金融研究機構、住友商事（株）：2024/01/22】

<https://rief-jp.org/ct4/142173>

<https://www.sumitomocorp.com/ja/jp/news/topics/2024/group/20240122>

■日本製紙（株）（東京）、勇払バイオマス発電所（北海道）と八代工場 N1 バイオマス発電設備（熊本）で発生する燃焼灰（以下、「バイオマス灰」）由来肥料の本格的な販売を 2024 年 1 月から開始。勇払バイオマス発電所は同社と双日（株）（東京）が共同で設立し、2023 年 2 月から営業運転を開始した、発電出力 74,950kw の国内最大級バイオマス専焼発電所。燃料に海外から調達する木質チップと PKS のほか、北海道内で発生する林地残材等の未利用木材を使用。八代工場 N1 バイオマス発電設備は 2015 年 6 月から営業運転を開始した発電出力 5,000kW の設備で、国産の間伐材由来等の木質チップ 100%を燃料としている。同社は 2018 年から試験的に八代工場のバイオマス灰の一部を特殊肥料として販売。その結果が良好であったことから、2023 年 7 月に 300t/年のバイオマス灰の全量を肥料化できる供給体制を確立。加えて 2023 年 10 月に、勇払のバイオマス灰について「肥料の品質の確保等に関する法律（肥料法）」における副産肥料としての登録を受けて 5,000t/年の供給体制を確立した。今後は農水省が運営する「国内肥料資源マッチングサイト」を活用し肥料製造会社や肥料利用者へのサンプルワーク

を進め、国産資源であるバイオマス灰の有効活用で肥料原料の安定供給に貢献していく【日本製紙（株）：2024/01/23、2015/05/27】

<https://www.nipponpapergroup.com/news/year/2024/news240123005612.html>

<https://www.nipponpapergroup.com/news/year/2015/news150527003084.html>

■ベルトコンベヤ部品の設計・製造等を行っている（株）JRC（大阪）、特定子会社の異動について発表。1 月 24 日開催の取締役会で、同社連結子会社の JRC C&M（株）（兵庫）を吸収合併継続会社、JRC C&M の子会社で JRC 連結子会社（孫会社）である東陽工業（株）（福島）を吸収合併消滅会社とし、吸収合併を行うことを決議。JRC C&M はバイオマス発電設備関連品の設計・製造・据付等を行っており、東陽工業は火力発電プラント及び都市ゴミ焼却設備、産業用ボイラ関連の設備機械製造会社。昨年 12 月 28 日付で、JRC C&M がコンベヤ搬送設備以外のボイラ関連製品、灰ホッパー、架台・貯留槽などの付帯設備までの製造領域の拡大・補完を目的として、東陽工業の全株式を取得したことを公表していたが、両社の経験・技術・ノウハウの融合等をより加速し、収益力の強化及び経営の効率化を図るため、合併することとなった。合併の効力発生予定日は 3 月 1 日【（株）JRC：2024/01/24、2023/12/28】

<https://contents.xj->

storage.jp/xcontents/AS97662/08368cde/1485/484b/be2d/bc9278d98ab7/140120240124518379.pdf

<https://www.jrcnet.co.jp/news/2023/4697/>

■フルハシ EPO（株）（愛知）、愛知県が主催する「2024 愛知環境賞」において「木質バイオマスのカスケードリサイクルにおける独創的技術体系による産業化と業界の牽引」等が評価され、銀賞を受賞。愛知環境賞は、企業・団体等が行うサーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルに関する取り組み等、資源循環や環境負荷低減を推進する先駆的で効果的な技術・事業、

活動・教育の事例を募集し、優れた取組みに授与されるもの。同社は1948年に設立し、1956年より木材チップ生産に着手。製材端材、建設系廃材、事業系廃材、その他剪定枝等を受入れ、無垢に近い良材は紙パルプ原料チップとして、次品質の材は木質繊維板原料チップとして、その他塗料・接着剤等付着の材は木質焚ボイラ燃料チップや再生可能エネルギー源ともなるバイオマス発電燃料チップとして供給している。木質バイオマスリサイクル産業を牽引し、木質廃棄物の利用拡大を図るとともにバイオマス発電事業へ参画し、環境を総合的に捉え、地球環境保全に努めてきたことは、持続可能な社会の実現に大きく貢献してきたものとして高く評価され、受賞に至った【フルハシEPO（株）：2024/01/24】

https://www.fuluhashi.co.jp/ir/upload_file/tdnrelease/9221_20240124518460_P01.pdf

■国内製材最大手・中国木材（株）（広島）の能代工場（秋田県能代市）が1月24日に稼働開始。同社が東日本でのシェア拡大などに向けた拠点として280億円余りをかけて建設。メインの工場がある製材棟エリア、資材の加工や一時保管をする加工集積エリア、さらに資材を乾燥させる天乾場エリアの3つに分かれており、一部施設は現在も建設中。全体の敷地面積は30万3,000㎡、年間の生産量は24万㎡の計画で、原木を加工する工場の規模としても生産規模も国内トップクラス。能代工場は当面試験的に運用し周辺を含め設備が完成する7月をめどに本格的な生産が始まる予定。将来的にはバイオマス発電など工場を核とした新規事業も計画している【ABS秋田放送：2024/01/24】
<https://nordot.app/1122827242746904933?c=113147194022725109>

■（株）タケエイ（東京）、1月25日付で（株）泉山林業（岩手）の発行済の全株式を取得し、子会社化することを決定。株式譲渡日は1月31日。泉山林業は1993年に設立。立木を伐採して丸太に加工する他、切削チップも保有し、用材やチップの販売も行う素材生産業者。タケエイの親会社であるTREホールディングス（株）（東京）では、岩手県花巻市内に山林を取得して以降、地元森林組合と協同で森林経営計画を策定し、植林、未利用材の調達からチップ化・供給、発電及び売電までの一貫体制を実現している。泉山林業がグループに加わることで、同社が保有する仕入先（個人を含めた山林保有者）ルートと林業分野の熟練した人材を確保できるとして、木質バイオマス発電事

業における安定的な燃料材調達を見込む【（株）タケエイ：2024/01/25】

https://www.takeei.co.jp/pdf/news_20240125.pdf

■ツネイシグリーンエナジー（株）（広島）、広島県神石高原町にバイオマス発電所を新設へ。同発電所では発電実施期間20年間で発電量が125,136,000kWh、CO₂は69,450,480kg排出削減の見込み。発電された電力はデジタルグリッドを活用した運用検討を行い、発電による排熱は常石グループが運営し、隣接する温泉施設「光信寺の湯ゆっくら」で活用。温泉施設ボイラで使用している重油を削減することで年間590,780kg-CO₂の排出削減につながる見込み。建設資金の総額9億円は、（株）商工組合中央金庫（東京）が融資先のグリーンプロジェクト（明確な環境改善効果のある事業・設備投資）をサポートする「グリーンローン」により調達。共同アレンジャー兼エージェンとなる商工中金が3億円、（株）共同アレンジャーのみみじ銀行（広島）が4億円、参加金融機関のしまなみ信用金庫（広島）が2億円を融資するシンジケートローン契約を2023年12月23日に締結している。2025年1月から本格稼働の予定【日本経済新聞、ツネイシグリーンエナジー（株）：2024/01/26】
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0CC2669V0W4A120C2000000/>
<https://tsuneishi-ge.com/news/35/>

■経産省資源エネ庁、1月29日に第93回調達価格等算定委員会を開催。今年度最後の委員会ということで、残る論点や令和6年度以降の調達価格等に関する意見（案）について議論。案では、2025年度の木質バイオマス発電のFIT・FIP調達価格は2024年度比横ばいにし、一般木材等（1万kW以上）のFIP基準価格は2024年度比横ばいにし、一般木材等（1万kW以上）のFIP基準価格は24年同様に入札制にする案とした。最終的に取りまとめた委員会の意見は2月7日、経産省資源エネ庁のサイトで公表されている【経産省：2024/01/29、2024/02/07、日本木材新聞：2024/02/06】

<https://www.meti.go.jp/shingikai/santeii/index.html>

https://jfpj.jp/mokuzai_news/30430

■徳島県阿南市にある王子製紙富岡工場で1月31日未明、火事発生。1月31日午前3時20分頃「ベルトコンベアから炎が上がっている」と、従業員が119番通報。消防車両8台が出て

消火活動を行い、約 14 時間半後に消し止められた。同発電所は、王子ホールディングス（株）（東京）子会社の王子グリーンリソース（株）（東京）が 80%、伊藤忠エネクス（株）（東京）子会社のエネクス電力（株）（東京）が 20%出資した合弁発電事業会社「王子グリーンエナジー徳島（株）」が建設し、運営。木質チップ（輸入材、国内材）、PKS 等を燃料とし、発電出力は約 7 万 4,950kW、発電量は約 5.4 億 kWh/年（一般家庭約 18 万世帯相当）。出火当時工場にいた従業員 4 人は全員避難し、ケガ人はなし。ボイラの燃料となる廃プラスチックをベルトコンベアに乗せる作業などを行っていたということで、警察と消防が出火原因を調査中。王子製紙（株）（本社・東京）は翌 2 月 1 日に出した「火災発生に関するお知らせ」で、「ボイラへの燃料供給設備から出火」したとしている。現在生産設備を停止し、出火原因、延焼範囲、生産設備の被害の詳細について調査中【四国放送：2024/01/31、王子製紙（株）：2024/02/01、王子ホールディングス（株）：2019/03/19、王子グリーンリソース（株）】

<https://news.ntv.co.jp/n/jrt/category/society/jr7fb4ee6a3f1f4376983fe49fa90deab5>

<https://www.ojpaper.co.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/KASAI.pdf>

<https://www.oji-green.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/06/OGETokushima-1.pdf>

https://www.oji-green.co.jp/business/pdf/OjiGreenEnergy_tokushima.pdf

■エア・ウォーター（株）（大阪）、新エネルギー財団主催の令和 5 年度新エネ大賞で、『国内初の未利用バイオマスを活用した液化バイオメタン地域サプライチェーンモデル』の取り組みにおいて「新エネルギー財団会長賞」を受賞したと発表。この取り組みは、北海道で未利用バイオマスである家畜ふん尿から発生するバイオガスを LNG（液化天然ガス）の代替燃料となる液化バイオメタン（Liquefied Bio Methane、以下「LBM」）に加工。域内で消費する地域循環型のサプライチェーンを構築するもので、環境省の「令和 3・4 年度 地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」に採択され、実施。北海道十勝エリアを中心に、LBM が工場のボイラ燃料、トラック燃料、船舶燃料をはじめ、都市ガスの代替燃料やロケット燃料としても利用可能であることを実証してきた【エア・ウォーター（株）：2024/02/01、2023/07/21】

[https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-](https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-2024020101.html)

[2024020101.html](https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-2024020101.html)

<https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-48725349958623587642.html>

■MIRARTH ホールディングス（株）（東京）グループ会社の（株）レーベンクリーンエナジー（東京、以下「LCE」）らが、カンボジア産カシューナッツ殻を活用したバイオマス燃料化事業参入へ。LCE は（株）トッププランニング JAPAN（東京、以下「TPJ」）、（株）福山コンサルタント（福岡）と共に、国内法人の MIRARTH グリーンテック（株）および同社 100%出資によるカンボジア現地法人の MIRARTH Agri Tech Co., Ltd. を設立。TPJ は 2019 年に国際協力機構（JICA）の支援を得てカシューナッツ加工モデルとバリューチェーン構築のための案件化調査を実施して以来、現地法人 TPJ カンボジア（TPJC）を設立し、現地工場との事業提携や新工場も稼働させている。MIRARTH ホールディングスグループは、TPJ がこれまで培ってきた当地におけるカシューナッツ生産・加工・流通に関する技術をより発展させる形で、現地工場を新たに建設する。LCE は、MIRARTH グループのエネルギー事業部門として再生可能エネルギー事業の開発・運営・管理を一貫して行っており、事業ポートフォリオの多様化を図る一環として参画【日本農業新聞：2024/02/01】

<https://www.agrinews.co.jp/news/prtimes/211636>

■TRE ホールディングス（株）（東京）グループ傘下の（株）花巻バイオマスエナジー（岩手、以下「花巻 BE」）、花巻バイオチップ（株）（同、以下「花巻 BC」）、（株）タケエイ林業（東京）が、（一財）新エネルギー財団主催の『令和 5 年度「新エネ大賞」の地域共生部門』で「新エネルギー財団会長賞」を受賞。三社は岩手県花巻市を拠点とし、保有する森林の植林、間伐、未利用材の調達から、木質バイオマス発電用のチップ製造・供給、そして発電までの一貫体制を実現。また発電した電力は隣接する工業団地内の工場や花巻市内の小中学校等に供給することで、エネルギーの地産地消を促進。さらに発電所の余熱を利用して栽培したきくらは地元の学校給食等に提供をしており、これらの取り組みが評価され、受賞に至った【TRE ホールディングス（株）：2024/02/01】

https://tre-hd.co.jp/docs/TRE_news_20240201.pdf

■廃油処理リサイクル（株）ダイセキ（愛知）と愛知県蒲郡市が、世界初の試みとして家庭から出る可燃ごみをバイオマス発電の燃料資源とする実証実験を開始（1月30日）。ダイセキは収集した市内の可燃ごみを実証プラントに運び、生ごみや草木類を機械で選別して細かく粉碎処理。続いて廃食油を使った「油温減圧乾燥施設」に原料を入れ、脱水と乾燥のうえで固形燃料にする。最後は燃料の組織を分析し、燃料としての有効性や市場価値などを調査する。ダイセキの山本社長によると、ウッドチップと同程度の性能を発揮できる上低コストで生産できている。同社は将来、約1万5,000t/年排出される市内の可燃ごみを燃料化し、バイオマス発電で5,000世帯の電力供給につなげたいと考えている。実証実験は2月29日まで実施【東愛知新聞：2024/02/02】

<https://www.higashiaichi.co.jp/news/detail/12733>

■長野県塩尻市で木質バイオマス発電事業などを行う「信州F・パワープロジェクト」に関わる征矢野建材（株）（長野）が、今冬から長野県麻績村内でアカマツ林の枯損木を伐採して発電に利用する事業に着手。同社の事業再建を支援する綿半ホールディングス（株）（長野）の協力で、長野県が森林づくり県民税で進める「森林病害虫被害枯損木利活用事業補助金」を活用し、伐採が進まないまま枯死して「白骨化」した状況が目立つアカマツ林の整備・再生に、これまで木材の受け入れが中心だった同社が主体的に取り組む。第1弾として事業に協力する意思を示した民有林約3,500㎡で今月から伐採・搬出をしてFパワーの事業用地へ運び、カラマツやスギ、広葉樹などへ樹種転換できるように整備する。今回の実績を踏まえ、新年度以降も周辺地域の地権者に理解を求めて徐々に活動域を広げる方針【市民タイムス WEB：2024/02/02】

<https://www.shimintimes.co.jp/news/2024/02/post-24600.php>

■セイコーエプソン（株）（長野、以下「エプソン」）、長野県飯田市にエプソンの自社発電所として初めてとなるバイオマス発電所を建設へ。南信州広域連合がごみ焼却施設としての運用を終えた2017年12月以降、懸案となっていた桐林クリーンセンター跡地（敷地面積32,200㎡）に建設を計画。投資額は「数十億円規模の見通し」で今後、土地の契約や発電に関わる申請などを進める。燃料には、主に南信州エリアの未利用材のほか、バーク材やキノコ培地を使用するとともに、一部エプソンの社内から排出する木製パレットも活用する予定。発電出力

は1,990kW、想定年間発電量は14,000,000kWh。FIP制度を活用し、発電した電力は市場へ販売され、発電によって生み出された環境価値をエプソンが使用することで自社使用する電力を再エネ化する。また災害など有事の際には地域施設への電力供給を行うことを想定。将来的には発電時に発生するCO₂の固定化・活用に向けた技術開発を行うなど、資源循環型の発電所を目指す。2026年度中に稼働開始予定【PR TIMES、日本経済新聞：2024/02/07、信濃毎日新聞：2024/02/09】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000204.000042912.html>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC256U10V21C23A200000/>

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024020900178>

■住友商事（株）（東京）、米州住友商事を通じて再生可能燃料の開発事業者 Strategic Biofuels (USA) と、米国ルイジアナ州における木質バイオマス由来の SAF（持続可能な航空燃料）生産に向けた共同開発契約を締結。原料の木質バイオマスを合成ガス化し、一酸化炭素と水素（合成ガス）から触媒反応を用いて液体炭化水素を合成するフィッシャー・トロプシュ法（以下、「FT 法」）を用いて SAF およびナフサを生産する事業を共同開発する。同時に SAF 生産時に排出される CO₂ を回収・貯留 (CCS) し、プラント内に併設されるバイオマス発電所から発生する CO₂ も回収・貯留 (BECCS) する。これら「ガス化・FT 法+CCS+BECCS」の要素を組み合わせた複合 SAF 生産でサプライチェーン全体においてネガティブエミッションを実現。2050年に消費される航空燃料の100%を SAF とする目標を掲げている米国内で、航空会社や燃料供給事業者向けに販売することを想定。2029年の商業生産開始を目標に、約12万kl/年の SAF およびナフサを生産する計画で、将来的に第2、第3プラントの建設も視野に入れている【住友商事(株):2024/02/08】

<https://www.sumitomocorp.com/ja/jp/news/topics/2024/group/20240208>

■ドイツ連邦経済気候保護省(BMWK)が、経済構造研究所(GWS)に委託して実施した2022年の再生可能エネルギー部門の同国での雇用者数に関する調査結果を公表。雇用者数は387,000人を超え、前年比で14.9%増加し、2012年以来最高の雇用水準と2006年以来最大の年間増加率を記録。太陽光エネルギー部門の雇用者数が前年比22,800人増加と一番多く、再生可能エネ

ルギー部門の雇用全体の22%を占めた。バイオマス部門の雇用は前年比で約9,900人増加と、安定した水準に。雇用者の業務で最も多かったのが、再生可能エネルギー設備や部品の投資業務であり、全体の2/3を占め、前年比で23%増加。ここにはドイツ国内だけでなく、ドイツ製品の輸出先である海外における投資も含まれる。また運用および保守の業務を担う雇用者数は前年比約3%増加の約85,200人に。再生可能エネルギー分野の活動は、ゆっくりではあるが継続的に成長する安定した雇用基盤を提供している【EIC ネット：2024/02/09】
<https://www.eic.or.jp/news/?act=view&serial=50180&oversea=1>

■福島国際研究教育機構（福島、以下「エフレイ」）、木質バイオマス発電所から廃熱とCO₂を回収し、園芸施設で農作物の栽培に活用する研究に着手したと発表。研究は産業技術総合研究所を代表機関とする共同事業体に委託する。エフレイによると、産総研は熱とCO₂をため込む吸着剤を開発。研究ではこの素材を施設園芸用に改良し、飯館村で春に運転開始予定の木質バイオマス発電所から発生する廃熱とCO₂を吸着させる。この吸着剤を園芸施設に運び、温度コントロールや光合成の促進に充てる考え。2025年度をめどに作物の実証栽培を始め、2029年度まで研究を続ける。将来的に全国に展開できる事業モデルの構築を目指す【福島民友新聞：2024/02/13、福島国際研究教育機構：2024/02/06】
<https://www.minyu-net.com/news/news/FM20240213-837750.php>
https://www.f-rei.go.jp/assets/contents/20240206_AFF.pdf

■商工中金盛岡支店（岩手）、（株）八幡平ネクストエナジー（岩手）に対し、バイオマス発電所建設資金として、総額58億2,000万円のシンジケートローン組成。商工中金が共同アレンジャー兼エージェンツとして、（株）岩手銀行（岩手）が共同アレンジャーとして21億1,000万円ずつ融資し、（株）東北銀行、盛岡信用金庫、（株）北日本銀行（全て岩手）が合計16億円融資。「グリーンローン」を適用している。八幡平ネクストエナジーは地元の（株）遠忠と（株）村上林業が共同出資し、2022年7月に設立。発電所の建設予定地は盛岡北部工業団地北東にある敷地面積約6haの遠忠所有地。木質チップの製造工場を併設し、約3万㎡の貯木場も設ける。製造工場は八幡平ネクストエナジーの子会社として同年設立の（株）八幡平グリーンパワ

ー（岩手）が運営する。出力は7,100kW、発電量は1万8,000世帯の一般家庭が年間使う電力に相当する5,878万kWhになる見通し。FIT制度を活用した発電事業を行う。プラントの建設工事は（株）タクマ（兵庫）が受注。9月にも着工し、2027年1月の稼働を目指す【日本経済新聞、商工中金、（株）タクマ：2024/02/15、岩手日報：2024/02/16】
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC1579M0V10C24A200000/>
https://www.shokochukin.co.jp/assets/pdf/nr_240215_01.pdf
<https://www.takuma.co.jp/news/2023/20240215.html>
<https://www.iwate-np.co.jp/article/2024/2/16/158331>

■台風で海岸に漂着した流木をバイオマス事業者が燃料として有効活用することで、撤去費用が約1/10に。宮崎県日向市美々津港近くの海岸には、おととしの台風14号で約200tの流木が漂着。処理には多大なコストがかかるため、県の日向土木事務所はバイオマス事業者と連携し、事業者が直接現場から流木を運び出し、燃料として有効活用する取り組みを2月から開始。現場では事業者が自ら使える木材を選別することになっており、こうすることで従来2,000万円程度かかる費用が、1/10程度に抑えられる見込み。作業は2月いっぱい終了する予定で、県は、環境に優しい資源循環型の撤去モデルになっている【TBS NEWS DIG：2024/02/15】
<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/999947?display=1>

■（公財）自然エネルギー財団上級研究員の相川高信氏、1月18日に同財団が開催した「ネットゼロに向けたバイオエネルギー：世界的議論を踏まえた日本における今後の展開」と題するシンポジウムについて報告。多岐に渡ったシンポジウムのトピックを再構成し、今後の日本での展開を考える上で重要な3つのポイントを下記サイトのコラムに掲載。当日の動画、資料も同サイトから閲覧可とのこと【（公財）自然エネルギー財団：2024/02/19】
<https://www.renewable-ei.org/activities/column/REupdate/20240219.php>

■総合繊維メーカーのセーレン（株）（東京・福井）、カーボンニュートラル実現に向け、福井県福井市にある二日市事業所に産業廃棄物などを燃料とするバイオマスボイラを新設したと発表。4,400t/年のCO₂削減を見込む。環境省の支援事業による

補助金 2 億 4,000 万円も活用し、計 7 億 4,000 万円を投資。同社は 2030 年度までに 2013 年度対比で CO₂ 排出量を 46%削減する目標を掲げており、2016 年に福井県勝山市にある勝山工場でバイオマスボイラを設置。今回で 2 基目となり、3 月中旬に稼働を始める。2026 年には福井市内の新田事業所に 3 機目を導入する予定【JJI.COM : 2024/02/19】

<https://www.jji.com/jc/article?k=2024021900577&g=eco>

■農業・食品製造のかねやま須藤農園（山形）が、バイオマス事業の（株）ALTES（東京、以下「オウルテス」）と組み、3 月から早生樹を試験栽培。成長が早い早生樹「ヤマトダマ」はオウルテスが開発。半年で高さ約 6m になり、伐採までに 30~50

年かかるスギやヒノキに比べて成長が速い。1 粒の種子から 300~500 粒の種子を取ることができ、大量生産も可能という。大成建設（株）（東京）と共同で 2022 年に品種登録した。山形県や山形大学などが地域課題解決型ビジネスの創出を支援する「Yori-i（よりあい）プロジェクト」が同農園とオウルテスを仲介。同農園の畑の一部 3 アールで約 500 本を栽培し、10 月頃に収穫する。これまで栽培実績のない日本海側の寒冷地での生育具合や必要な農薬量などを調べる。施設園芸の暖房やバイオマス発電への活用を目指す【日本経済新聞 : 2024/02/19】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC157C50V10C24A200000/>

2. ペレット関連情報

■鳥取県、昨年 9 月に発生した米子バイオマス発電所（鳥取県米子市）の火災事故を受け、県条例に排ガス規定を追加へ。2 月 1 日に行われた県知事定例会見の資料によると、火力発電所（バイオマス発電等）のアセス手続きが必要となる要件（鳥取県環境影響評価条例施行規則）の「発電出力 15 万 kW 以上」に、県内で稼働中の木質バイオマス発電所全てが対象となる規模である「排出ガス量 4 万 m³/h 以上」を新たに追加。この改正案に対し 1 月 15 日~29 日までパブリックコメントを実施。この時の意見を受け、「施行日までに電気事業法の手続き（認可または届出）済みの事業は対象外とする経過措置を設ける」としている。2 月上旬には鳥取県環境審議会答申、3 月頃に改正規則を公布し、一定期間周知後施行する予定。米子バイオマス発電所の事故対応としては、外部有識者を含めた事故調査委員会を立ち上げ、11 月 27 日に第 1 回委員会を開催。12 月 4 日には経産省の第 1 回審議会が開催され、事業者が損壊状況や事故調査の途中経過を報告。現在は事故調査委員会で事故原因を検証中であり、委員会は 1~3 月に 2 回程度開催。3 月中に事故調査報告書を提出予定で、3~4 月に経産省の第 2 回審議会が開催される予定とのこと【日本海新聞 : 2024/01/21、鳥取県知事定例会見資料 : 2024/02/01】

<https://www.nnn.co.jp/articles/-/222852>

<http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1348047/240201shiryoudf>

■徳島県徳島市の港湾部で 2023 年 12 月に営業運転を始めた徳島津田バイオマス発電所、報道陣に木質ペレットや PKS の燃料倉庫、ボイラ棟、タービン棟、中央制御室などの施設を公開（1 月 25 日）。同発電所は（株）レノバ（東京）、大阪ガス（株）（大阪）、（株）フォレストバンク（徳島）、（株）ダイリ FPC（徳島）、徳島電機産業（株）（徳島）が共同出資した徳島津田バイオマス発電所合同会社が事業主体。四国最大級の発電出力 7 万 4,800kW で、発電電力量は約 5 億 kWh/年（一般家庭 15 万世帯分に相当）。燃料に使う PKS が夏の高温で発酵が進み、臭いが発生したとして昨夏以降に取り沙汰された悪臭は「本格稼働で燃料の滞留がなくなり、ほぼ収まった」とみている。同発電所は 3 月以降に一般の見学を開始する予定【日本経済新聞 : 2024/01/30、日テレ NEWS : 2024/01/25、PR TIMES : 2023/12/11】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC268660W4A120C2000000/>

<https://news.ntv.co.jp/category/society/jr9bd50a540ef546c2b8e202834094e18b>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000032.000054933.html>

■愛知県武豊町にある（株）JERA（東京）の武豊火力発電所で 1 月 31 日 15 時 10 分頃、爆発火災事故が発生。火元とみられるのは木質バイオマス燃料を約 300t 保管していたバンクで、燃料を送るベルトコンベヤに延焼。爆発音がした後、通常は

20℃程度のバンカ内温度が 55℃まで上昇したことがセンサで確認されている。約 5 時間後の 20 時 04 分に鎮火。負傷者はなく、中部地域への電力供給にも影響は出ていない。同社によると、爆発を受け、同日の 15 時半頃発電機の運転を停止したが、原因が判明するまで運転再開はしないという。事故のあった武豊火力発電所 5 号機は、東京電力フュエル&パワー（株）（東京）と中部電力（株）（愛知）が出資する JERA が 2022 年 8 月に運転開始した出力 107 万 kW の石炭・バイオマス混焼発電所。発電電力量は約 12 億 kWh/年（一般家庭約 240 万世帯分の年間電力量相当）と、単機の発電設備としては国内最大級。石炭火力の低炭素化を狙い、使用燃料の 17%を木質バイオマスとした。建設計画を発表した当初（2017 年）は、海外から輸入する「ブラックペレット」と呼ぶ加熱処理した木質ペレットを使用すると公表していた。同発電所 5 号機では、2022 年 8 月と 9 月、2023 年 1 月にも発煙事故が発生していたが、設備の点検頻度を増やし、ペレットが崩れて粉が生じにくいようにベルトコンベヤを改造する等、その都度対処してきた【(株) JERA：2024/02/01、ニュースイッチ：2024/02/06、日刊工業新聞：2017/03/01】

https://www.jera.co.jp/news/information/20240201_1810

<https://newswitch.jp/p/40342>

<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00419186>

■(株) JERA（東京）、1 月 31 日に発生した武豊火力発電所（愛知県知多郡武豊町）での火災をふまえ、同様の木質バイオマス燃料を使用する碧南火力発電所（愛知県碧南市）および常陸那珂火力発電所（茨城県那珂郡東海村）において、設備の安全性を確認する緊急点検を実施し、結果を公表。2 月 2 日、実施していた緊急点検をすべて完了し、異常は認められなかったと報告。着火源となりえる機械装置（電動機、減速機、ローラ等）の異常の有無については、目視での点検および異音がないことを確認。集じん装置のフィルターの詰まりはなく、バイオマス燃料の一連の系統設備の周辺にも粉塵の著しい堆積がないことを確認したが、粉塵の軽微な堆積が認められた箇所については計画的に清掃を進めていくとしている。保管中のバイオマスペレットの温度についても問題がないことを確認した。同社は 2 月 5 日、1 月末に起きた火災について事故調査委員会を設けると発表。渡部哲也副社長を委員長に、社外の有識者として名古屋大未来材料・システム研究所の成瀬一郎教授や設備メーカーの関係者も交えて 7 人でつくる予定。調査を完了する時期は

未定としている【(株) JERA：2024/02/02、朝日新聞：2024/02/05】

https://www.jera.co.jp/news/information/20240202_1813

<https://www.asahi.com/articles/ASS2561YJS25ULFA01T.html>

■北海道旅客鉄道（株）（北海道、以下「JR 北海道」）、北海道富良野市日の出町にある JR 富良野駅の待合室にペレットストーブを設置。観光客らが暖を取っている。富良野市の「再生可能エネルギー導入促進事業補助金」を活用し、(株) 山本製作所（山形）のペレットストーブ「日陽(ひなた) 型式 PS-1311F」を導入した。燃料には、JR 北海道が保有する「かみふらのの森」（約 270ha）など富良野地区森林組合が所管する富良野市、上富良野町、中富良野町、占冠村の森林資源を利用し、地元の(有) 内田木材がチップ加工、RamaPokke がペレット加工、(有) 三素が販売しているペレットを使う。温室効果ガスの削減に取り組む JR 北海道が今冬、道内の駅で初めて導入。既設の FF 石油ストーブと併用し、待合室の室温を保てるように出力を調整しながら灯油の使用量を抑制することで CO₂ 排出量を削減する。12 月から 3 月まで運転する予定【北海道新聞：2024/02/02、北海道旅客鉄道（株）：2023/12/14】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/970841/>

https://www.jrhokkaido.co.jp/CM/Info/press/pdf/20231214_KO_rano_pellet.pdf

■上伊那森林組合（長野県伊那市）、地域の間伐材を原料にした木質ペレットを生産する工場の製造ラインを 2024 年度に増設へ。組合は 2003 年、木質バイオマスエネルギー工場を建設。当初は年間販売数量 1,750t を目標にしていたが、一般家庭や施設園芸農家、公共施設などに木質ペレット用のストーブ、ボイラが普及し、当初計画の 2 倍以上の規模に。2022 年度の販売数量は過去最高の 4,559t。1 つしかない製造ラインを平日は午前 6 時から翌午前 0 時まで稼働させなければ間に合わない状況となっていた。新年度、工場ラインを増設する予定【中日新聞：2024/02/03】

<https://www.chunichi.co.jp/article/848048>

■能登半島地震で被災した東京ガスグループの伏木万葉埠頭バイオマス発電合同会社（富山県高岡市）、年度内再開目指して急ぐ復旧。同発電所は敷地の液状化現象に見舞われ、30~50 cm の段差ができるなど、車両が安全に通行できない状態となっ

た。重要施設部分は基礎がしっかりとしているため目に見える大きな被害はないが、プラントを結ぶパイプの継ぎ目にずれなどが生じたほか、排水溝が泥で埋まり水が流れなくなるなどの被害が確認されており、操業停止が続いている。同社の安田社長によると、発電所は昨年12月上旬から計画停電していたため、発災時にタービンは動いておらず、ひどい損傷は免れた。現在は発電所に導入されている設備の各メーカーが点検や修理作業を進め、地中の配管の点検も急ぐ。同発電所は東京ガス100%出資子会社であるプロミネットパワー（東京）が、シンガポール・エクイスグループが運営するファンドが保有する案件で事業主体である伏木万葉埠頭バイオマス発電合同会社を2020年9月に取得。発電所は2022年7月に運開。燃料にアジア・北米産の木質ペレット等を約20万t/年使用し、出力は51.5MW。FITを通じて売電している【富山新聞：2024/02/06、メガソーラービジネス：2020/08/29、伏木万葉埠頭バイオマス発電合同会社】

<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1310147>

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/01111/?ST=msb>

<https://fushiki-manyou-biomass.jp/>

■長野県にある上伊那森林組合と伊那市が、農業用木質ペレット温風暖房機の現地見学会を同市高遠町下山田の「農事組合法人らいふ」が管理する花卉栽培ハウスで開催（2月14日）。農業生産におけるCO₂削減と森林資源の有効活用に向け、施設園芸に取り組む農家への普及を目指して初めて実施。同法人は6棟のハウスでアルストロメリアを栽培。原油価格高騰の影響もあって、昨年12月に暖房機1台を石油からペレットを燃料とするものに切り替えた。見学会は同法人の協力を得て2回実施し、暖房機メーカーの（株）山本製作所（山形）の担当者や生産者が機械の性能や使用状況などを説明。参加者はハウスの設備を見学し、市の担当者から補助制度の説明も受けた。伊那市によると、市内に導入されている農業用の木質ペレット暖房機は5台とのこと【Nagano Nippo Web：2024/02/16、伊那谷ネット：2024/02/15】

<http://www.nagano-np.co.jp/articles/121897>

<https://ina-dani.net/topics/detail/?id=63970>

■長野県伊那市、同市高遠町にある上伊那森林組合の木質ペレット生産工場に、製造設備の電力を一部賄う「小型木質バイオ

マス発電設備」を2024年度中に導入予定。2024年度一般会計当初予算案に事業費2億3,560万円を計上。同組合の木質ペレットは地元の間伐材などを材料に使い、昨年度は生産量、販売量がいずれも4,500tを超え、共に過去最高を更新。市は再生可能エネルギー活用を進める中、電気の自活も重視。地元の間伐材や流木など、廃棄されるはずの木を燃料にして必要な電力の概ね25%を供給できる見込み。発電設備の設置は市が担い、事業費には国の再エネ推進交付金を活用する。交付金を活用する事業ではこのほか、同組合の木質ペレット増産に向けた施設整備の補助金に3億円、保育園や学校へのペレットストーブとペレットボイラの設置に7,025万円を計上【Nagano Nippo Web：2024/02/16】

<http://www.nagano-np.co.jp/articles/121888>

■秋田県北秋田市、2030年までに市内の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」に挑戦すると宣言（2月15日）。政府は2020年に「2050年までにカーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）を実現する」と目標を掲げているが、これを20年前倒しする。宣言では「温暖化防止という課題に対し、市、市民、事業者が一層の危機感を持ち、一丸となって温室効果ガスの排出量削減を進めていかなければならない」と強調。「持続可能な社会を次世代へ残していくため、30年までに市内の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す」とした。2024年度一般会計当初予算案には地球温暖化対策の関連予算として約7億円を計上。森林整備のほか、住宅用木質ペレットストーブ導入補助金等に取り組む。地球温暖化対策実行計画の策定も進める。北秋田市の津谷市長は「市は本県1位、全国でも10位の広大な森林面積を持っている。20年前倒しは大きな目標と思われがちだが、片方で減らず、片方で森林を活用することで達成できると思う」と述べた【北鹿新聞：2024/02/16】

https://www.hokuroku.co.jp/pages/51/detail%3D1/b_id%3D974/r_id%3D7459/&

■富山県南砺市立野原東の桜ヶ池周辺の市有地に、居住と交流を目的にした「桜ヶ池エコビレッジフィールド（仮称）」を開業へ。地元の建設業の第一交易（株）と市が2月15日に発表。計画では、第一交易が8月に東海北陸自動車道城端スマートインターチェンジ東側の市有地9,000㎡を取得。敷地を3つのエリアに分け、6～8世帯が生活できる賃貸住宅・アパート（短期

居住エリア)と3~5区画の住宅分譲地(長期居住エリア)、芝生広場やカフェ・直売所(にぎわいエリア)を整備する。分譲地では平屋建ての住宅を建設する予定で、賃貸住宅は県産材使用や木質ペレットストーブなどの導入を検討する。市は2013年にエコビレッジ構想を策定し、桜ヶ池周辺を自然と南砺の暮らしを楽しめるモデル地域とした。2025年春造成工事に着手し、2026年秋の開業を目指す【富山新聞：2024/02/16】

<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1318641>

■四国電力(株)(香川)の長井啓介社長、2月16日に東京都内で記者会見を実施。香川県坂出市において計画中的木質バイオマス燃料を活用した発電所で火災対策を徹底する考えを示した。バイオマス燃料は長期保管すると酸化し、発火する可能性がある」と指摘した上で「監視や冷却をどうするか、しっかり検討する必要がある」とし、1月31日に愛知県武豊町で火災事故が起こった「JERAの事例も調査したい」と話した。坂出バ

イオマス発電事業は四国電力、(株)安藤・間(東京)、東京ガス(株)(東京)100%出資子会社のプロミネットパワー(株)(東京)、イーレックス(株)(東京)、新光電装(株)(香川)、(株)坂出郵船組(香川)の6社共同で進めている。国内最大級となる出力約7万5,000kWのバイオマス発電所を建設し、海外から輸入する木質ペレット約32万tを燃料として発電。年間発電量は一般家庭約17万世帯に相当する約5.3億kWhを想定しており、FITを利用し発電する電気の全量を四国電力送配電(株)(香川)へ売電する計画。事業主体は坂出バイオマスパワー合同会社。営業運転開始は2025年6月の予定【産経新聞：2024/02/16、四国電力(株)：2021/10/22】

[https://www.sankei.com/article/20240216-](https://www.sankei.com/article/20240216-TPWSE7EJ5LZ7MEEULJGVZX2EU/)

[TPWSE7EJ5LZ7MEEULJGVZX2EU/](https://www.yonden.co.jp/press/2021/_icsFiles/afieldfile/2021/10/22/pr007_1.pdf)

https://www.yonden.co.jp/press/2021/_icsFiles/afieldfile/2021/10/22/pr007_1.pdf

3. イベント情報(国内)

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

2024年3月4日(月)

Zoom ウェビナー

■RX Japan(株)「第9回【国際】バイオマス展【春】」

<https://www.nef.or.jp/topics/2024/20240129.html>

2024年2月28日(水)~3月1日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>

■NPO法人農都会議「2024提言SG第3回『地域・企業の現場から政策提言』勉強会~身近な課題の解決策を気軽に提案しよう!~」

2024年3月4日(月)

オンライン開催(Zoom利用)

■RX Japan(株)スマートエネルギーWeek 春

2024年3月1日(水)~3日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/422>

■認定特定非営利活動法人FoE Japan シンポジウム「原発事故から13年一核なき未来をめざして」

2024年3月2日(土)

法政大学市ヶ谷キャンパス大内山校舎402(東京)/zoom

<https://foejapan.org/issue/20240129/15862/>

■(一社)日本森林技術協会「R5『地域内エコシステム』モデル構築事業(実施計画策定支援)成果報告会」

2024年3月7日(木)

ウェビナー

<https://wb-ecosys.jp/hokokukai-r5.html>

■(一財)新エネルギー財団 令和5年度「バイオマス講演会」
「早生樹のポテンシャルを木質バイオマス発電に活用する(仮)」

■(一社)日本森林学会「第135回日本森林学会」

2024年3月8日(金)~11日(日)

東京農業大学世田谷キャンパス1号館(東京都世田谷区)

<https://www.forestry.jp/meeting/meeting-135/>

■（一社）日本森林学会「森林・林業分野職業研究会」、ランチョン・ミーティング「森林科学を学んだらどんな仕事があるのか」

2024年3月11日（日）

東京農業大学一号館（東京都世田谷区）

<https://www.forestry.jp/news/meetings/official-events-7-and-8/>

■広島大学バイオマスプロジェクト研究センター「第13回バイオマスプレミアムイブニングセミナー」

2024年3月11日（月）

ZOOM オンライン

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/adse/news/81430>

■（一財）環境イノベーション情報機構「～気候変動の課題解決に取り組む～学生ワークショップ」

2024年3月13日（水）～3月17日（日）

国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

<https://www.eic.or.jp/eic/topics/2024/info/002/>

■（公財）自然エネルギー財団「国際シンポジウム REvision2024 世界は自然エネルギー3倍化へ進む」

2024年3月14日（木）

虎ノ門ヒルズフォーラムメインホール（東京）/Zoom Webinar

<https://www.renewable-ei.org/activities/events/20240314.php>

■（一社）日本木材学会、等 第74回日本木材学会年次大会（京都大会）一般公開シンポジウム

「木の文化 ～伝統を未来につなぐ～」

2024年3月14日（木）

京都大学時計台百周年記念ホール（京都府京都市）

<https://confit.atlas.jp/guide/event/wood2024/static/sympj>

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク（BIN）第221回研究会「コンビナートへの廃木材由来の蒸気供給の事例（仮題）」

2024年3月14日（木）

地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）

<https://www.npobin.net/>

◎岩手・木質バイオマス研究会 第23回定例セミナー「木質ペレットの現状（仮題）」

2024年3月15日（金）

アイーナ7階 岩手県立大学アイーナキャンパス学習室2（岩手県盛岡市）

<https://wbiwate.jimdofree.com/%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88%E6%83%85%E5%A0%B1/>

■おおさか ATC グリーンエコプラザ実行委員会「令和5年度おおさか ATC グリーンエコプラザセミナー エコハウスフォーラム 住宅における脱炭素社会の実現に向けて～2025年からの『省エネ住宅義務化』は通過点～」

2024年3月15日（金）

おおさか ATC グリーンエコプラザ内 セミナールーム（大阪府大阪市）

https://www.ecoplaza.gr.jp/seminar_post/s20240315/

■埼玉県気候変動適応センター「気候変動適応サイエンスカフェ「温暖化が水稻生産に及ぼす影響とその適応策」

2024年3月28日（木）

Zoom 開催

<https://saiplat.pref.saitama.lg.jp/archives/1730>

■NPO 法人農都会議シンポジウム「化石文明から再エネ文明へ～森林・バイオマスを生かした脱炭素まちづくり」

2024年4月22日（月）

オンライン開催（Zoom など利用）

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/423>

■BIO FUELS & CARBON

2024年5月13日（月）～14日（火）

東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240501&>

■BIOMASS INNOVATIONS ASIA 2024

2024年5月13日（月）～15日（水）

東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240501&>

◎14th Biomass Pellets Trade & Power
2024年5月13日(月)～16日(木)
東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240203&>

◎2024NEW 環境展/2024 地球温暖化防止展

2024年5月22日(水)～24日(金)
東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.n-expo.jp/>

◎RX Japan(株)「第22回 SMART ENERGY WEEK【秋】」
2024年10月2日(水)～4日(金)
幕張メッセ(千葉県千葉市)

<https://www.wsew.jp/autumn/ja-jp.html>

◎RX Japan(株)「第12回 SMART ENERGY WEEK【関西】」
2024年11月20日(水)～22日(金)

インテックス大阪(大阪)

<https://www.wsew.jp/osaka/ja-jp.html>

4. イベント情報(海外)

■2024 International Biomass Conference & Expo

2024年3月4日(月)～6日(水)
ヴァージニア州リッチモンド(USA)

<https://2024->

[bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home](https://www.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home)

◎Argus Biomass Asia Conference

2024年3月5日(火)～7日(木)
シンガポール

<https://www.argusmedia.com/ja/conferences-events->

[listing/biomass-asia/speakers](https://www.argusmedia.com/ja/conferences-events-listing/biomass-asia/speakers)

■World Sustainable Energy Days

2024年3月5日(火)～8日(金)
ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference>

◎European Pellet Conference 2024

2024年3月6日(水)
ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference>

■Biogas Italy

2024年3月13日(水)～14日(木)
ローマ(イタリア)

<https://www.biogasitaly.com/?lang=en>

■Gasification 2024

2024年3月20日(水)～21日(木)
ヘント(ベルギー)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/gasification/>

■ZENTRUM WALD FORST HOLZ

2024年3月21日(木)
フライジング(ドイツ)

<https://dfuv.eu/veranstaltungen/kategorie/veranstaltungen/>

◎BIOMASA 2024

2024年4月7日(日)～11日(木)
ブルノ(チェコ共和国)

<https://www.bvv.cz/en/biomasa/event-profile>

■Bio-CO2 Use and Removal 2024

2024年4月16日(火)
ヘルシンキ(フィンランド)

<https://www.bioenergia.fi/in-english/>

■WFES 2024 – World Future Energy Summit

2024年4月16日(火)～18日(木)
アブダビ(アラブ首長国連邦)

<https://www.worldfutureenergysummit.com/>

◎Argus Biomass Conference

2024年4月23日(火)～25日(木)
ロンドン(UK)

https://www.argusmedia.com/conferences-events-listing/biomass?utm_source=conf-partner&utm_medium=referral&utm_campaign=euaf-erc-2024-04-bim-biomass&utm_content=euaf-erc-2024-04-bim-biomass-eu-be-listing-12-23

■WBA Spring webinar series: The Future of Liquid Biofuels

2024年4月30日(火)

ウェビナー

<https://www.worldbioenergy.org/news/770/47/World-Bioenergy-Association-announces-Spring-webinar-series/>

■BOILER 2024 | ABMA Boiler Technology Conference & Expo

2024年5月1日(水)～3日(金)

コロラド州デンバー (USA)

<https://abmaboilerexpo.com/>

■Waste Expo

2024年5月6日(月)～9日(木)

ネバダ州ラスベガス (USA)

<https://www.wasteexpo.com/en/home.html>

■ALL ENERGY EXHIBITION AND CONFERENCE 2024

2024年5月15日(水)～16日(木)

グラスゴー (UK)

<https://www.all-energy.co.uk/>

■CO2 Capture, Storage & Reuse Conference

2024年5月15日(水)～16日(木)

コペンハーゲン (デンマーク)

<https://fortesmedia.com/co2-capture-storage-reuse-2024.4.en.2.1.37.html>

■7th Biomethane Congress

2024年5月21日(火)～22日(水)

ポズナン (ポーランド)

<https://magazynbiomasa.pl/en/narodowy-kongres-biometanu/>

©European Pellets Forum 2024

2024年5月28日(火)～29日(水)

ナンテ (フランス)

<https://pellet-forum.eu/>

©Propellet

2024年5月29日(水)

ナンテ (フランス)

<https://pellet-forum.eu/>

■Carbon Capture & Storage Summit

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

http://fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Carbon_Capture_Storage_Summit

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

■Biodiesel Summit: Sustainable Aviation Fuel & Renewable Diesel

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://few.bbiconferences.com/Biodiesel.html>

■WBA Spring webinar series: Role of Bioenergy in Atmospheric CO2 Removal

2024年6月18日(火)

ウェビナー

<https://www.worldbioenergy.org/news/770/47/World-Bioenergy-Association-announces-Spring-webinar-series/>

■International Biogas Congress & Expo

2024年6月18日(火)～19日(水)

ブリュッセル (ベルギー)

<https://bioenergy-news.com/conference/about-biogas/>

■26th IUFRO WORLD CONGRESS

2024年6月23日(日)～29日(土)

ストックホルム (スウェーデン)

<https://iufro2024.com/>

■ EUBCE 2024 - 32nd European Biomass Conference and Exhibition

2024年6月24日(月)～27日(木)

マルセイユ(フランス)/オンライン

<https://www.eubce.com/>

■ 2024 International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://2024->

few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home

■ 2024 Biodiesel & Renewable Diesel Summit

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://2024->

few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Biodiesel

[Summit Sustainable Aviation Fuel Renewable Diesel](#)

■ 2024 Carbon Capture & Storage Summit

2024年7月10日(水)～12日(金)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://2024->

few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon

[Capture Storage Summit](#)

■ FinnMETKO 2024

2024年8月29日(木)～31日(土)

ヤムサ(フィンランド)

<https://www.finnmetko.fi/>

■ Progress in Biogas VI

2024年9月2日(月)～4日(水)

シュトゥットガルト(ドイツ)

<https://ibk-biogas.com/schedule/progress-in-biogas/>

■ North American SAF Conference & Expo

2024年9月11日(水)～13日(金)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=>

[Home](#)

■ Renewable Gas Trade Fair 2024

2024年10月1日(火)～2日(水)

バリャドリード(スペイン)

<https://salondelgasrenovable.com/en>

■ 2024 National Carbon Capture Conference & Expo

2024年11月19日(火)～20日(水)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://2024->

nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home

■ European Bioenergy Future

2024年11月20日(水)～21日(木)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://bioenergyeurope.org/events/11-events/415-ebf->

european-bioenergy-future-2024.html

◎ Nordic Pellets Conference 2025

2025年2月5日(水)～6日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets->

conference-2025/

■ EXPO BIOMASA

2025年5月6日(火)～8日(木)

バリャドリード(スペイン)

<https://www.expobiomasa.com/en/>

■ Elmia Wood

2025年6月4日(水)～7日(土)

ヨンショーピング(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/en/wood/>

5. 公募等情報（締切順）

■農水省「令和6年度地域資源活用展開支援事業の公募について」

公募期間 2024年2月9日（金）～3月8日（金）

https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/kanbo/240209_302-1.html

■長野県「未利用木材を含めた森林資源の有効活用に取り組む事業者を募集します（未利用材等活用システム構築支援事業）」

計画提出期限 2024年3月15日（金）

<https://www.pref.nagano.lg.jp/mokuzai/happyou/240126press.html>

■長野県「令和5年度信州健康ゼロエネ住宅助成金」

募集期間 2023年11月1日（水）～2024年3月15日（金）

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kenchiku/kenkozeroene/joseikin.html>

■長野県塩尻市「塩尻市木質バイオマス利用設備設置費等補助金（ペレットストーブ、ペレットボイラー用燃料）」

申請書受付期間 2023年4月3日（月）～2024年3月15日（金）

<https://www.city.shiojiri.lg.jp/soshiki/30/2997.html>

■兵庫県宍粟市「宍粟市再生可能エネルギー利用促進事業補助金（木質バイオマス燃料製造設備導入費用助成）」

受付期間 2023年4月3日（月）～2024年3月15日（金）

<https://www.city.shiso.lg.jp/soshiki/sangyo/rinngyousinnkou/tanntoujyouhou/shinenerugi/1515747696234.html>

■NEDO「バイオジェット燃料生産技術開発事業／技術動向調査」に係る公募について

受付期間 2024年2月19日（月）～3月19日（火）

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2_100389.html

■NEDO 2024年度「脱炭素化・エネルギー転換に資する我が国技術の国際実証事業（実証要件適合性等調査）」に係る第1回公募について

提出受付期間 2024年2月22日（木）～3月25日（月）

https://www.nedo.go.jp/koubo/AT092_100230.html

■農水省大臣官房環境バイオマス政策課「農林漁業バイオ燃料法に基づく事業計画、支援措置（固定資産税の特例等）」

固定資産税の特例の適用期限 ～2024年3月31日（日）まで

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/>

■FAO Global Bioenergy Partnership「2024 GBEP Youth Award」

応募締切 2024年3月31日（日）まで

<https://www.fao.org/in-action/global-bioenergy-partnership/programme-of-work/working-areas/youth-involvement-in-gbep/gbep-youth-award/2024-gbep-youth-award---call-for-paper/en>

■林野庁「『森ハブ・プラットフォーム』参画企業・団体等を募集」

https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/ken_sidou/230904.html

■岐阜県美濃加茂市「美濃加茂市里山千年構想推進業務補助金」

https://www.city.minokamo.gifu.jp/shimin/contents.cfm?base_id=11257&mi_id=1&g1_id=9&g2_id=0

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県木質資源利用促進事業費補助金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030501/2019022200068.html>

■高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

■高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

■高知県仁淀川町「仁淀川町再生可能エネルギー利活用事業費補助金」
http://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG0000129.html#e000000030

■北海道「林業・木材産業改善資金」
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/kaizennshikinn.pdf>

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」
<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共の施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」
<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料普及拡大推進事業補助金」
<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=24564>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料高騰対策事業補助金」
<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=25479>

■栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyou/ondanka/syoue-ne-setubi-yuusi.html>

※融資制度

■徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5007685/>

※融資制度

■奈良県「新エネルギー等対策資金」
<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

■（公財）日本環境協会「令和2年度環境配慮型融資促進利子補給事業」
https://www.jeas.or.jp/activ/prom_24_00.html

※融資制度

■神奈川県横浜市「よこはまプラス資金（環境・エネルギー対策）」
<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/plus/hozenshikin.html>

※融資制度

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」
<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

※融資制度

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」
<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

※融資制度

■千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

■千葉县市原市「市原市企業立地促進条例」
<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittigaido.html>

■NEDO「2024年度『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業』に係る公募について【予告】」

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100387.html

※2024年3月上旬から1カ月間公募予定

■NEDO 2024年度「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の品質規格の策定委託事業」に係る公募について【予告】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100391.html

※2024年3月中旬から1カ月間程度公募予定

■NEDO 2024年度「新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業」（新エネ中小・スタートアップ支援制度）に係る公募について【予告】

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA1_100453.html

※2024年3月下旬～2024年5月中旬公募予定